

令和8年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

【第1回】

令和8年5月12日（火） 午後6時～ 場所：総合学習センター 講師：高須 亮平先生

基調提案 今年度の読書会テーマ「深い学び」

今年度のテーマを「深い学び」としました。理由として、昨年度の「わり算」「証明」の授業研究より分析した成果と課題から、子供が数学的な見方・考え方を働かせる具体を、より広い単元で追究すべきだと実感したからです。そこで今年度は、深い学びの実現に向けて、①見方・考え方の働かせ方を継続的に探究すること ②具体的な指導事例を蓄積し共有すること ③全国学力学習調査や先行研究を基盤に授業改善を進めることの3点を大切にしていきたいと思えます。また、次期学習指導要領に向けた第一の方向性として『主体的・対話的で深い学び』の実装が示されており、今年度の研究を進める上でも意識しておきたい重要な視点です。

■深い学びについての講話

今回の読書会では、柴田先生と高須先生に「深い学び」についてのご講話を行っていただきました。その中で両先生は、深い学びとは単なる「手順の習得」ではなく、「知識を相互に関連づける学び」であることを強調されました。さらに、その実現のためには、教師自身が学びの本質を理解し、問い続ける態度を身につけることが重要であると示されました。以下に、講話していただいた順に内容を報告します。



【高須 亮平先生 「分数のわり算から見た深い学び」】

分数のわり算（小6）を「手順」ではなく「構造」として理解させるために、既習（小3）のわり算の意味を振り返ることが重要である。

授業では、「 $12 \div 4 = 3$ 」「 $24 \div 8 = 3$ 」といった復習問題を活用し、「わられる数」「わる数」を変えても答えが同じになる関係に着目できるようにする。そして、一番簡単な式である「 $3 \div 1 = 3$ 」から「 $\square \div 1 = \square$ 」というわり算の代表の式（一般化）へと導く。このような構造をおさえておけば、分数のわり算（ $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ ）を考える際に、「 $\frac{3}{4}$ を1にそろえるために、それぞれに $\frac{4}{3}$ （逆数）をかけて、 $\square \div 1 = \square$ をつくる」ことに気づけるようになる。逆数をはかることの意味を理解できるようになる。このように、既習の意味を捉え直し、構造を見だして一般化し、新たな場面に適用する学びが「深い学び」である。

(わられる数)	(わる数)
12	4
24	8
36	12
3	1
↓	
代表	$\square \div 1 = \square$

(わられる数)	(わる数)
$\frac{2}{5}$	$\frac{3}{4}$
$= \left(\frac{2}{5} \times \frac{4}{3} \right) \div \left(\frac{3}{4} \times \frac{4}{3} \right)$	
$= \left(\frac{2}{5} \times \frac{4}{3} \right) \div 1$	
$\frac{2}{5}$	$\frac{4}{3}$

【柴田 録治先生 『とは』と『どうして』を身につける教師の態度】

深い学びを生み出すためには、教師自身が「とは」と「どうして」の態度を身につけることが必要である。

「とは」…定義（本質）と行為（どうすることか）を理解する態度

例：通分 通分とは分母をそろえること（＝定義）

そのために公倍数を使って分子・分母を同じ数でかける（＝行為）

教師が本質を理解していないと、手順だけを教えてしまう。そのため、教師自身が「とは何か」を説明できることが深い学びの前提である。

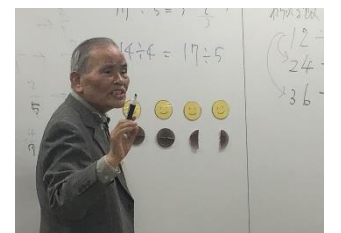
「どうして」…理由を問い、確かめる態度

「なぜその手順なのか」「得られた結果は本当に正しいのか」など、手順や教材の意図、結果の正しさを問い直すことが重要である。

反復練習を「覆す」姿勢

- ・反復練習は長く「身につけるための正しい学び方」とされてきた。
- ・深い学びでは、「本当にそれでよいのか」と教師が問い直し、必要なら従来の考えを覆すことも大切である。

つまり深い学びとは、意味・構造・理由を理解し、それを問い直すことができる学びである。そして、その出発点は、教師自身が意味や理由を問い続ける態度にある。



今回は柴田録治先生と高須亮平先生に「深い学び」についてご講話を頂きました。短い時間ではありましたが、今年度の読書会で考えるべき課題を示していただき、大変実りのある時間となりました。

「深い学び」をテーマに今年度の読書会は行っていきます。多くの先生の授業力が向上するよう努めてまいります。今年度も多くの先生方のご参加をお待ちしております。